別 紙 3

つつが虫病について

新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課

1　つつが虫病とは

○　つつが虫病は、細菌の一種であるリケッチアによる感染症です。北海道や沖縄を除く全国で発生が見られ、春～初夏及び秋～初冬に２つの発生ピークがあります。また、アジア、東南アジアにも広く存在しており、輸入感染症としても注意が必要です。

○　本疾患は、リケッチアを保有したつつが虫（ダニの一種）の幼虫に刺されることによって感染します。ヒトからヒトへうつることはありません。

○　典型的には、５～１４日の潜伏期の後に、全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱などの症状が現れます。数日後より、体幹部を中心に発しんが現れ、リンパ節の腫れを伴うこともあります。

2　対応・予防方法

○　抗菌剤による治療を行います。通常、抗菌剤が速やかに効きますが、治療が遅れると重症化する場合があるので、早期発見・早期治療が重要です。

○　農作業、山菜採り、庭仕事などで山林や草地などに入るときは、次のことに注意しましょう。

（１）長袖、長ズボン、長靴を着用し、肌をできるだけ出さないようにする。

（２）衣類を草むらに置いたり、草むらで休息や用便をしたりしない。

（３）防虫スプレーを使用する。

（４）山野での作業後は入浴するなどして、吸血前のダニを皮膚から洗い流す。

（５）ダニが体についていないか点検する。

・ダニに刺されている場合は早期に除去することが重要です。早ければ病原体が体内に注入されることを防げる場合もありますので、皮膚科で除去してもらうことをお勧めします。

＊自分でダニの体をつまんで引き抜こうとすると、病原体を自分の体内に注入してしまうことや、ダニの頭部が皮膚に残ってしまうことがあります。

3　その他の主なダニ媒介感染症

○　日本紅斑熱：日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニ【大きさ約３mm】に刺されて起こる感染症です。潜伏期は２～８日で、高熱、発疹を伴って発症します。

○　ＳＦＴＳ：ＳＦＴＳウイルスを保有するマダニ【大きさ約３mm】に刺されて起こる感染症です。潜伏期は６日～２週間で、発熱、食欲低下、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛などで重症化し、死亡することもあります。

○　その他に、ライム病、回帰熱、ダニ媒介脳炎等があります。

4　届出状況

		平成 30 年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
つつが虫病	新潟県	7	4	13	7	3
	全国	456	404	538	545	75
日本紅斑熱	新潟県	0	0	0	0	0
	全国	305	318	422	487	66
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	新潟県	0	0	0	0	0
	全国	77	101	78	110	40

令和４年６月５日現在（全国は令和４年５月 29 日現在）

【参考：啓発ツール・リーフレット等】

・厚生労働省ホームページ「ダニ媒介感染症」（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html）